

平成28年 2 月 5 日（金）公開授業Ⅱ  
会 場 2 階-②  
授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校  
栄養教諭 五十嵐 忍  
教諭 剣 仁美

1 主題名 ぜんぶたべられたよ  
資料名 いただきます（文溪堂 1年）改作

2 本主題の価値  
本主題は、平成27年度 7 月に告示された、学習指導要領解説 特別の教科道徳編 第 1 学年及び第 2 学年の内容項目に準拠して設定したものである。

B 主として人とかかわりに関すること  
感謝 家族など日ごろ世話になっている人々に感謝すること

また、食に関する指導の手引の以下の内容も受けている。

食に関する指導の内容  
○ 感謝の心(食事に込められた思いに気付くことで、食事を作っている人への感謝の気持ちを高める)

本主題の目標は、次の通りである。

食事には、食事を作る人の子どもの心身の健康を願う思いが込められていることに気づき、食事を作る人への感謝の気持ちを高める。

子どもは、「野菜を食べると元気になる」「肉を食べると丈夫になる」など、食事の栄養についての知識はもっている。しかし、給食の様子を見ると、きれいな料理を前にすると食べることをやめたり、一口も食することなく残したりする。子どもは、食育を通して、心身の健康のためには、残さずに食べることが大切だと分かっているが、実際の食事では、好ききらいを優先することが多い。望ましい食事のとり方を理解するだけでは、子どもの行為（好ききらい）に変容をもたらすことは難しい。子どもの行為に変容をもたらすには、望ましい食事のとり方を理解させるだけでなく、食事を作る人の思いに気付かせ、自分のことを思っ

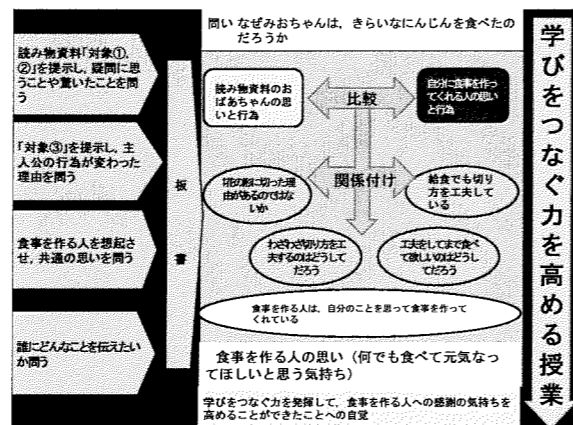
て食事を作っていることに対して感謝の気持ちを高めることが大切なのである。そこで、本主題では、読み物資料を活用し、食事を作る人の「何でも食べて元気になってほしい」という思いに気付かせ、食事を作る人へ「感謝の気持ち」をもって接していこうとする心情を育てる。

始めに、読み物資料を提示する。子どもは、読み物資料の主人公の行為が変わった理由を考え、その理由を話し合う活動を通して、食事を作る人の思いに気付いていく。次に、子どもは、読み物資料から感じたことと自分の生活とを結び付けて考える。さらに、普段、給食を作っている栄養教諭の話聞くことで、食事を作る人の思いを単に理解や自覚するだけでなく、食事を作る人への感謝の気持ちにつなげることができる主題である。

3 本主題で目指す姿

本主題では、**食事を作る人の思いに気づき、食事を作る人への感謝の気持ちを高める子ども**を目指す。具体的には、「いつもごはんを作ってくれる人が、私の健康を考えて作っていることが分かりました。いつも作ってくれる人に感謝して、これからも元気に育っていきたいです」などと、食事を作る人は自分のことを考えて食事を作っていることが分かり、食事を作る人への感謝の気持ちを高めた姿である。

- (1) 「中核的な学習内容」  
食事を作る人の思い（何でも食べて元気になってほしいという思い）
- (2) 「学びをつなぐ力」  
関係付けるすべを用いて、資料の登場人物と実生活とを結び付け食事を作る人の思いを考えると



- (3) 「学びをつなぐ力」の有用性の自覚  
資料の登場人物と実生活とを結び付け、食事を作る人の思いを考え、自分のことを考えて食事を作ってくれていることに気づき、食事を作る人への感謝の思いをもつ大切さを実感したことの自覚

- 4 指導の構想  
子どもは、「野菜を食べると元気になる」「いろいろなものを食べると体が丈夫になる」などと、食事の大切さを理解している。しかし、実際の食事では、好ききらいを優先してしまう子どもに次のように働きかける。

働き掛け 1  
読み物資料（以下：「対象」）①、②を提示し、疑問に思うことや驚いたことを問う。

学習課題を設定させるための働き掛けである。まず、「対象①」を提示する。「対象①」は、主人公が好ききらいを言って、きれいな食べ物を残してしまう場面である。子どもは、主人公の行為について、自分の経験を想起し、自分も似た経験があると共感したり、好ききらいを言って残しているからだめだと否定したりする。

このような子どもに、「対象②」を提示する。「対象②」は、主人公がきれいなにんじんを思い切って食べる場面である。子どもは、主人公の行為の変化に疑問や驚きを感じる。ここで、どんなことに疑問や驚きを感じたのか問い、学習課題「なぜ、みおちゃんはきれいなにんじんを食べたのだろうか」を設定する。

働き掛け 2  
「対象③」を提示し、主人公の行為が変わった理由を問う。

食事を作る人の思いに気付かせるための働き掛けである。子どもは、主人公の行為に変化をもたらした理由を「対象①」と「対象②」を比較し、課題解決のための情報を得ようとする。しかし、提示された「対象」では、情報が不十分であるため子どもは、課題解決できないでいる。

このような子どもに、「対象③」を提示する。「対象③」は、主人公が食事を作ってくれたおばあちゃんの思いが分かる場面である。子どもは、読み物資料から、花の形に切られたにんじんは、おばあちゃんの主人公に対する「何でも食べて元気になってほしい」という思いの表れであったことに気付く。

そして、子どもは、主人公はおばあちゃんの思いを知ったことで、きれいなにんじんを食べたことが分かる。

働き掛け 3  
食事を作る人を想起させ、食事を作る人の共通の思いを問う。

「対象」から分かったことと、自分の生活とを結び付けるための働き掛けである。「対象」のおばあちゃんは、何でも食べて元気になってほしいという気持ちで食事を作っていることに気付いた子どもに、「自分にとって、「対象」のおばあちゃんのような気持ちで食事を作っている人はだれですか」と問う。子どもは、「対象」のおばあちゃんの行為と実生活とを関係付け、家族など自分のために食事を作ってくれる人のことを想起する。そして、きっとその人たちも「対象」のおばあちゃんのような気持ちで食事を作ってくれているのではないかと考える。

そこで、子どもの考えを確かなものにするために、栄養教諭の体験や思いを基に話をします。給食の献立を決める時に考えたり工夫したりすること、残食の多い日は心配になることなど、栄養教諭でしか語れない体験や思いを話す。子どもは、関係付けるすべを用いて、栄養教諭も「対象」のおばあちゃんと同じ思いで食事を作っていることが分かる。子どもは、食事を作る人は、何でも食べて元気になってほしいという思いをもっていることに気付く。

働き掛け 4  
誰にどのようなことを伝えたいか問う。

自分のことを思って食事を作っている人たちへ、感謝の気持ちをもって接していこうとする心情を高めるための働き掛けである。食事を作る人の思いに気付いた子どもに、「今日の学習で分かったことを誰に伝えたいですか。どんなことを伝えますか」と問う。子どもは、いつも自分のために食事を作っている人のことを具体的に想起し、伝えたいことを書く。そのようにすることで、食事を作る人たちの気持ちを改めて考え直し、**食事を作る人の思いに気づき、食事を作る人への感謝の気持ちを高める子どもになる。**

また、「学びをつなぐ力」の有用性を自覚させるために、誰にどのようなことを伝えたいのかその理由を問う。「学びをつなぐ力」を発揮したことで、食事を作る人の思いに気づき、自分のことを考えて食事を作ってくれている人へ感謝することの大切さを自覚する。

5 指導計画 全1時間(3Q)  
 ぜんぶたべられたよ(本時)  
 給食時間における食に関する指導(事後指導)

6 本時の構想 1/1時間(45分授業)

(1) ねらい

食事には、食事を作る人の、何でも食べて元気に成長してほしいという気持ちが込められていることに気づき、食事を作る人へ感謝の気持ちをもって接していこうとする心情を育てる。

○ 食育の視点

・食事に込められた思いに気付くことで、食事を作っている人への感謝の気持ちを高める<感謝の心>

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆つなぐ力	教師の働き掛け
<p>1 主人公の行為について、疑問に思うことや驚いたことを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かる。分かる。僕もそういうことある。</li> <li>・残してばかりで、おばあちゃん、かわいそう。</li> <li>・きらいだから残してはいけないと思います。</li> <li>・にんじん以外はがんばって食べれば良いと思います。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・え、みおちゃん、食べたのどうして?</li> <li>・どうしてきらいな物が食べられたんだらう。私は食べられません。</li> <li>・食べなさいって言われたんだと思う。</li> <li>・にんじんがお花の形になっているから食べてみようかなって思いました。</li> <li>・にんじんには栄養があるからだと思います。</li> <li>・おばあちゃんにしかられた。食べなさいって。</li> </ul>	<p>○指示「これからお話を読みます。どんなお話なのかよく聞きましょう」</p> <p>※「対象①」を提示する。(栄養教諭)        ○発問「このお話を聞いて、みなさんはどう思いましたか」(学級担任)</p> <p>○指示「実はこのお話にはまだ、続きがあります」(学級担任)</p> <p>※「対象②」を提示する(栄養教諭)        ○発問「どうしてって思ったり、なんでだらうって思ったりしことはありますか。発表しましょう」(学級担任)【働き掛け1】</p> <p>※ 子どもの生活経験や考えが表出するよう、「それはなぜですか」「なぜそう思ったのですか」「そういうことがあったの」などと問い返しをする。</p> <p>※ 学習課題の設定        「今、皆さんはこういうことを疑問に思っているんですね。なぜ、みおちゃんは、きらいなにんじんを食べたんだらう」</p>
<p>2 主人公がにんじんを食べた理由を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きつとおばあちゃんに怒られたんだと思う。</li> <li>・どうしておばあちゃんは、心配そうに見ていたのだから。なんで、心配になったのかな。</li> <li>・にんじんが花の形になったからだよ。</li> <li>・この前のにんじんも花の形に切ったの。だけど、残しているよ。</li> <li>・形は食べたことに関係があるのかな。</li> <li>・でも、きらいな物ってそんなに食べられないよ。形は変わってもにんじんはにんじんだから。</li> <li>・だったら、どうしておばあちゃんは、にんじんを花の形に切ったのかな。</li> <li>・花の形に切ったら、みおちゃんが食べてくれるっておばあちゃん、思ったんじゃないかな。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おばあちゃんが、みおちゃんに何でも食べて元気になってほしいと思って食事を作っていたことが分かったから。</li> <li>・おばあちゃんは、みおちゃんがきらいなにんじんを食べられるように、花の</li> </ul>	<p>○発問「なぜ、みおちゃんはきらいなにんじんを思い切って食べたのでしょうか」(学級担任)</p> <p>※ 学習課題の提示(学級担任)</p> <p>※ 話合いの論点や主張点(理由)が分かるように板書する(栄養教諭)</p> <p>○指示「皆さんはこのように考えたのですね。実際はどうだったのでしょうか」</p> <p>※「対象③」を提示する。(栄養教諭)        ○発問「みおちゃんがにんじんを食べた理由を発表しましょう」(学級担任)【働き掛け2】</p> <p>○説明「みおちゃんは、おばあちゃんの何でも食べて元気になってほしいっ</p>

形にしたことが分かったから。

ていう気持ちがわかったから、みおちゃんはきらいなにんじんを食べたのですね」(学級担任)

3 食事を作る人の思いを考える

- ・お母さんです。毎日、朝ご飯を作ってくれます。
- ・おばあちゃんです。お母さんがいないときは、おばあちゃんが作ってくれます。
- ・お父さんです。たまに夕ご飯を作ってくれます。
- ・五十嵐先生です。給食は五十嵐先生が献立を考えているからです。
- ・きつとそう思っていると思う。だって、好き嫌いしないでねって言われたことがあります。

・五十嵐先生に聞いてみよう。

- ・食べやすくなるように、切り方も考えていることが分かりました。
  - ・やっぱり五十嵐先生も、お話のおばあちゃんと同じ気持ちだった。
  - ・五十嵐先生もお話のおばあちゃんのように、きらいな物でも食べやすくなるように工夫していた。
- ☆つなぐ力 資料の登場人物と実生活とを結びつけ、食事を作る人の思いを考える

4 今日の学習で分かったことを、誰にどんなことを伝えたいか記述する

- ・私は、おかあさんに、いつも私のためにおいしいごはんを作ってくれてありがとうと伝えたいです。
- ・私は、お家の人や五十嵐先生が、元気になるってほしいと思って食事を作っていることは分かってはいたけど、食べられない人のために、いろんな工夫があることを初めてわかりました。私たちのことを考えてくれていてうれしいと思いました。

(3) 評価

○ 食事を作る人の思いが分かり、自分のことを考えて食事を作っている人たちへ、感謝の気持ちをもって接していこうとする心情を育むことができたかを発言やワークシートの記述から評価する。

○説明「みなさんも毎日食事をしますよね」  
 ○発問「みなさんにとって、このお話のおばあちゃんのような気持ちで食事を用意してくれる人は誰ですか」(学級担任)

※ なぜそう考えるのか問い返す。  
 ※ この時、どの食事を誰が作っているのかも発表させる。

○指示「おうちの人や五十嵐先生は、本当にこのお話のおばあちゃんみたいになっているのかな。五十嵐先生に聞いてみましょう」(学級担任)

※ 栄養教諭の話  
 ・栄養教諭が子どもへ給食を通して伝えたいことを、思いを述べる。  
 ○発問「五十嵐先生は、どんなことを思っ

て給食を作っていましたか」(学級担任)【働き掛け3】  
 ※ 食事を作る人の共通の思いに気付かせる。

○発問「今日の学習で、どんなことが分かりましたか」(学級担任)

○指示「今日の学習で分かったことを、あなたにとってのおばあちゃんに手紙を書きましょう」(学級担任)【働き掛け4】

※ この時「少しでも食べてね」などと言われた経験を想起させ、その理由を考えることで、食事を作る人は自分ごとと考えて作ってくれているという実感をもたせる。